

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 内灘町立西荒屋小学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例：小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒920-0262

石川県河北郡内灘町字西荒屋ハ6-7

E-mail nishi-es@educet04.plala.or.jp

Website http://cms1.ishikawa-c.ed.jp/~nishue/NC2/

幼児児童生徒数 男子 34 名 女子 36 名 合計 70 名

幼児・児童・生徒の年齢 7 歳～ 12 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定 (見込み) として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800 字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

当校は、「豊かな心を持ち、たくましく生きる児童の育成」を校訓として、ESD を持続可能な開発のための教育と捉え、ESD の実践を通して児童のたくましく生きる力の育成を目標とした。

具体的には、国際理解、平和・人権、環境を柱に、①総合的学習に係わる教育 (4 年・5 年) ②委員会活動に係わる学習、③図画工作に係わる学習を行った。

① 総合的学習に係わる教育

ア、4 年生の取組

4 年生は視覚障害者との交流を通じて、自分たちにどんなことができるかを考えた。点字教室及び手話教室を実施し、お礼の手紙を点字で書いて伝えるなど体験的に学んだ。

イ、5 年生の取組

5 年生は総合的学習の一環として、校舎の 1 階部分にアサガオのグリーンカーテンを設置した。種まきと種とりは全校で行い、水やりを中心とした他の作業は 5 年生が行った。また、地球温暖化の現状や持続可能な環境づくりについて調べたり、自分たちができるエコ活動について考えたりした。

グリーンカーテンにより日差しを遮ることができたとともに、一面の緑のカーテンは目にも優しく、本校の正面を美しく飾った。

② 委員会活動に係わる学習

企画委員の児童は12月に赤い羽根共同募金の街頭募金活動、1月に校内でユニセフ募金を行った。赤い羽根共同募金は、事前に社会福祉協議会の方より取組の目的や概要についてお話を聞いて取り組んだ。ユニセフ募金はその目的を自分たちで調べ、校内放送にて呼びかけを行って取り組んだ。児童は自分たちの働きかけにより多くの人の募金を得られることに喜びを感じながら、取り組んでいた。

③ 図画工作に係わる学習

6年生の図画工作の学習の一環として、下肢に障害のある方をゲストティーチャーとしてお招きをし、絵手紙教室を実施した。絵手紙を教えていただくとともに、日常生活について様々な体験談をお聞きし、より良い共生の仕方について考えを深めた。



① アの写真（手話教室）



① イの写真（グリーンカーテン）



② の写真（赤い羽根共同募金）



③ の写真（絵手紙教室）

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input checked="" type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

- ・ 4年国語教科書 (光村図書「手と心で読む」)
- ・ 赤い羽根共同募金の取組の説明パンフレット

② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程 (指導計画) にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。(200～300字程度)

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

ユネスコスクールとしての活動は、各教科・特別活動の年間指導計画に位置付けている。各担当者は活動のねらいを明確化したうえで、児童の興味・関心や実態を考慮して指導を行っている。取組の際は、様々な協力していただける人や団体との連絡調整が欠かせない。担当者は前年度の記録をもとに早めに関係各位と連絡をとり、運営を行っている。活動の後には、児童の振り返りを行い、ねらいが達成されたかを確認している。また、その振り返りをもとに、次年度の取組の工夫改善に努めている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。(200字程度)

※チェック事項1-4に対応

取組内容は職員会議で提案され、全教職員の共通理解のもと行っている。担当者をできるだけ複数配置し、共同的に運営できるようにしている。継続的に活動に取り組めるよう、担当者はファイルに写真やワークシート、児童の成果物等を綴り、次年度の担当者への引継ぎを行っている。また、グリーンカーテン作りでは時には全校作業を取り入れ、担当者の負担の軽減に加え、全校の意識の共有化・高まりとなるよう配慮している。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価(内部/外部)の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。(200字程度)

※チェック事項1-5に対応

それぞれの取組について職員間で成果と課題を交流し、反省点を伝え合っている。外部評価を求める場は特に設けていない。点字・手話・絵手紙教室では児童の共生への視点や方策を持たせることができた。グリーンカーテン作りでは環境を守る意識を高めることができた。課題はグリーンカーテン作りでは、5年担任の負担が大きいという現状がある。

- ⑤ ESDの推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度)

※チェック事項2-2に対応

アサガオのグリーンカーテンは学校ホームページ・9月号学校だより・5年学年だよりにて写真を入れて紹介した。赤い羽根共同募金は学校ホームページにて取組の内容を紹介した。ユニセフ募金は1月学校便りにて取組内容を伝え、保護者の理解を求めた。点字・手話・絵手紙教室は学年だよりにて取組内容を紹介した。これらの発信によって、持続可能な開発のための教育の取組の理解や賛同を得られている。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)

(200字程度)

※チェック事項2-3に対応

赤い羽根共同募金は、町社会福祉協議会の支援によって行っている。募金場所までの児童の送迎や募金場所の承諾のみならず、児童に活動の概要・目的を学習する機会を提供していただいている。アサガオのグリーンカーテン作りではグリーンカーテンを作って環境の美化を図り、省エネ活動を推進する、「花と緑のある町づくり大賞」コンクールに参加している。

⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（200字程度）
※チェック事項2-4に対応

国内外のユネスコスクールとの交流は特に行っていない。将来的な交流のためのネットワーク構築に向けて取り組んだことは、学校のホームページに活動の一端（赤い羽根共同募金）を紹介している。

⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項2-5に対応

アサガオのグリーンカーテンは児童・教職員のみならず、地域の方々にとっても高い関心を示すところとなっている。児童・教職員・地域の方々にとって環境を考える機会を持つことになったり、安らぎや精神の安定をもたらしたりしている。全校で行う植ええや種とりの集会では、全校児童が楽しみながら参加し、全校に根付いている。下級生にとってはこれらの集会から、5年生になったら中心となってグリーンカーテンを作ろうという意欲づけになっている。

(3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

- 今年と同様に取り組む予定でいる。
- ・総合的学習に関わる教育。
4年生・・・点字教室，手話教室
5年生・・・グリーンカーテン作り
 - ・委員会活動に関わる学習
企画委員会・・・赤い羽根共同募金，ユニセフ募金
 - ・教科に関わる学習
6年生・・・絵手紙教室